地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	フォレストでの暮らしの中で、生きがいを見つけていただけるよう入居者と職員が共に支え合い、助け合いながら生活を続けていくという思いから基本理念が生まれた。「生きがいを見つけ、共に育む。」		
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内の目にとまりやすいところに理念を大きく掲示している。また日々の業務の中でも理念を意識して行動するよう理解を深める時間を作っている。		
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ユニットの入り口に理念を明記している。訪問者やご家族の方に随時利用者が地域の中で暮らし続ける大切さを説明しながら、理念の意味や職員の取り組みについて、理解してもらえるように努めている。		
２．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけた際など、近隣住民の方々に挨拶や世間話を積極的に行えるように努めている。	○	今後参加者や散歩コースの変更も検討して、より多くの地域の方とおつきあいができるようにしたい。
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元での秋祭り・カラオケ大会・バザーなど積極的に参加していただき、ふれあいのひと時を持ち、交流を深めている。昨年初めて、八万文化祭に作品を出展した。	○	年間行事に組み込むなど、継続して取り組んでいきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣接施設と合同で行う納涼祭・家族介護教室など、地域の方々も参加していただくことができる催しを通じて事業所に足を運んでいただき、事業所の社会的役割を理解していただけるよう努めている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価結果を職員に伝達し、改善できる点を話し合い、改善に向けて取り組んできた。		
8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見については、職員に伝達し、サービス向上につながるよう努めている。最初に比べると、参加者もリラックスした雰囲気の中で、意見を出しやすい空間ができている。	〇	さらに様々な意見が集められるように、工夫しながら会議に臨みたい。
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との交流を密にし、様々な相談を行い、アドバイスをもらったりしながら、市町村との良好な関係や質の向上に努めている。また地域包括支援センターからの見学も積極的に受け入れている。		
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な研修に参加したり、、職員同士で情報交換を行って、学ぶ機会・知識を広げるよう努めている。現在制度を必要とされるケースはないが、必要時には活用できるようにしている。	〇	必要なケースが無いため、職員の理解が薄いことが考えられる。引き続き資質の向上を図っていきたい。
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	必要な書類などを用意したり、日々の業務の中で虐待に対する正しい知識が持てるよう、指導している。常に利用者の安全について意識して行動するようにしている。	〇	虐待防止についての勉強会を開いたり、研修会に参加して、今後も職員の資質の向上に努めたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書について、充分な時間をとって説明を行っている。また自由に質問していただき、理解が得られるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気安く、管理者や職員に意見などを訴えられるように、ゆったりとした雰囲気を大切にしている。意見があった際には、申し送り時に職員へ報告し、具体的に業務に活かせられるように話し合っている。	○	改善できていない要望もあり、今後更に検討し、改善できるように取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に個別に報告したり、急ぐ時には電話で報告している。お変わりがなくとも月に1回は、フォレスト便りを発行し、文書にて近況報告を行っている。また、行事の際には、葉書で案内もしたりと積極的に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	廊下入り口に意見箱を設置して、来所の際には声をかけ、コミュニケーションに努め、意見の出やすい環境づくりに努めている。直接口頭で言われることもあり、その度真摯に受け止め、業務に反映させている。	○	意見箱の積極的な活用を今後も呼びかけていきたい。個別の希望やささいな苦情も真剣に受け止め、改善に向けて積極的に取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に、業務改善・意見等を尋ねている。意見が出れば、その場で他の職員にも意見を聞き、不参加の者にも出勤時に意見を確認し、２日以内には結論が出せるようにしている。また月に1回のミーティングを行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時には、柔軟な対応ができるよう充分な時間を取り、作成している。状況によっては、勤務表作成後も微調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職などによるダメージを最小限にする為の配慮を行っている。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
あ				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交代で、外部の研修に参加している。またホーム内では、2ヶ月に1回、緊急時対応や介護技術等の勉強会を行い、資質の向上に向けて取り組んでいる。	○	来年度は、年間計画を立てて、計画的に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内施設での勉強会を行う等、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。研修を通じてではあるが、他事業所との相互訪問も行い、気づきの機会を得られた。	○	今後、研修に参加した職員と会議の場を設け、気づきが現場に活かせられるように取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同法人内での協力施設職員との交流を行っている。個別の悩みの相談にも真剣に向き合ってくれている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員の異動になどによるダメージをよく理解し、極力避けるように配慮されている。それぞれの得意分野を伸ばすことができるような配置づけを行ったり、業務分担を分け与えることで、責任感と向上心を養えるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず入居前に自宅の訪問面接を行っており、現在の悩み・不安・希望などを直接聞くような機会を作っている。また、利用開始までに2回以上会う機会を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず入居前に自宅の訪問面接を行っており、現在の悩み・不安・希望などを直接聞くような機会を作っている。また入居前健康診断時にもご家族に同席していただき、利用開始までに2回以上会う機会を作っている。その他、電話等にて随時確認を行っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、家族・本人の「現在」の希望をよく見極め、必要に応じて、居宅介護支援事業所にも相談し、他のサービスも説明する等、利用者の目線にたった対応を心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず入居前に利用者やご家族に見学に来ていただきき、生活をイメージしていただけるように努めている。本人の状態を考慮しながら少しずつ馴染んでいただけるように、臨機応変な対応を心がけている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の大先輩であるということを念頭に置き、本人の得意分野について、他の入居者や職員も学ばせていただく機会を設けたり、また日々の家事活動や会話の中で本人から学んだり、喜怒哀楽を共にできるような関係づくりを意識している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護サービス計画作成時やトラブル発生時などの課題について家族も解決策を一緒に考えていただき、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。	○	全家族に対して、共に支えあう意味を理解していただけるよう、積極的に話し合いの場を持つように取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間で不仲の時は、間に職員が入ったり、家族を恋いしがられる時は、その気持ちを代弁したりして家族との関係づくりに努めている。また、行事にも一緒に参加していただき、時間を共にすることにより良好な家族関係を維持する場としている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時のライフスタイルや本人の希望に合わせて、限りある範囲の中で最大限、関係が維持できるように個別のケースに合わせて支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係をよく理解して、みんなが支えあえるような関係づくりに努めている。	○	現段階で、支え合う関係には至っておらず、今後更に利用者同士の関係づくりを工夫していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院へ入院された時は、お見舞いに行くようにしている。また、行事への案内を送付し、いつでも気軽に立ち寄れるよう継続した関係づくりに努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの意向が汲みとれるよう個別にコミュニケーションを取るように努めている。小さな事柄でも、なるべく本人に意思決定してもらえるような場面を工夫して作っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、入居前の環境についてできるだけ詳しく把握し、馴染みの暮らしを継続できるように努めている。また入居前に本人宅を訪問して、環境について把握できるようにしている。入居後も随時今までの生活の様子について、把握できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に入居者の全体像を把握して介護にあたれるようにしている。入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日頃の生活の中で、ご自身でできることの把握をしている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に、本人の元々の生活スタイルなどを話し合い、情報を聞きだして意見等も反映させた介護計画書を作成している。面会の少ない家族にも電話等を用いて、細かい情報や希望を介護計画に反映できるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末のモニタリングや、カンファレンスを個別に行い、随時介護計画に追加する等、微調整を行っている。状態が変化した際にも迅速に担当者会議を行い、随時計画書の変更も行っている。	○	介護職員だけでなく、ご家族にも担当者会議に参加していただき、現状に近い形の介護計画書を作成していきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の排泄・食事量・入浴などを記録するページ、日々実施された作業を記録するページ、自由に文書を記入するページを用いて、具体的かつ簡潔にまとめ、後に読み返す際にも見やすいように工夫している。特に申し送りが必要な事柄は、その日の日誌に記録して、申し送り時や毎日の業務開始前に個々に確認している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の希望や状況に応じて、受診・リハビリなどの通院や個別の外出などを行い、要望に応じられるように努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元町内の文化祭へ作品を出展したり、地域の図書館や観光施設会館等に通い、地域に溶け込みながら生活している。	〇	今後、民生委員やボランティアの協力にも力を入れて取り組んでいきたい。
41	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所の介護支援専門員や通所リハビリ施設の理学療法士や他の職員・相談員とも関係を密にし、必要に応じて他の資源を活用できるよう努めている。		
42	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、情報交換・協力体制を築きつつある。	〇	現時点では、まだ連携が十分とは言えず、更に連携・協働ができるように体制を整えたい。
43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居当時より、再々説明を行い、個別なケースや希望についても迅速に対応している。協力病院とは、こまめに報告・連絡・相談を行い、状態に応じた医療が受けられるよう支援している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院で精神科医の診察も受けてることができ、認知症についての相談・診断・治療を行っていただける環境にある。専門医にも柔軟な対応ができており、適正な診察・治療の助言ができている。		
45	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の外来看護職員とは、気軽に相談し、健康面・医療面で、よく協力してもらっている。また薬剤に関しては、薬剤師に気軽に相談でき、支援してもらっている。		
46	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院への入院の場合、病棟の主任看護師や主治医との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。他の病院への入院時も電話や見舞いに出かけて、担当職員との情報交換に努めている。		
47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり、終末期に近づきつつある入居者に対しては、適切な施設・病院への転院があることを、入居時に協力病院の医師にも協力していただいて説明をしてもらっている。家族の希望も聞きながら、方針についての理解を得ている。		
48	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に協力病院と連携を取りながら、「できること・できないこと」を見極め、今後の状態変化時に向けての調整や準備を行っている。		
49	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や担当職員と十分話し合い、予測されるダメージ・リスクを事前に話し合いや情報交換を行うことで、少しでもダメージを軽減できるように努めている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として、尊敬の意を込めて、丁寧な言葉かけを心がけており、普段からプライバシーへの配慮を職員にも厳しく指導している。		
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の様々な場面において、自己決定できるような声かけを常に心がけている。また、本人の理解力に合わせた説明を行い、納得して暮らせる支援に努めている。		
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間に幅を設けたり、当日、訴えられた希望については、その日のうちに実施できるように、入居者に合わせて臨機応変に対応している。	○	希望にそって、支援していても限度があり、「基準」の幅を広げられるように、業務の改善に取り組みたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある場合は、行きつけの理・美容院へと出かけたり、毎日自分で衣服を選んで着用できるように見守りをしている。化粧や毛染めなども希望に合わせて細やかに配慮ができるようにしている。		
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りにも、入居者の意見を取り入れ、準備・食事・後片づけ等も一緒に行い、職員も一緒に楽しく食事をしながら、メニューについて話し合う等、食事が楽しみとなっている。	○	食事つくり・後片づけに参加される方が少なくなってきている。みんなが取り組みやすいような工夫をして、少しでも多くの方が参加できるように改善したい。
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこを望まれる方は、現在いませんが、好みのおやつ・飲み物については、好きな時間に居室やリビング等で自由に楽しめるように支援している。		

	項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	〇気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		オムツを使用されている方でも、昼間はポータブルトイレへ誘導し、少しでもトイレでの排泄に近づけられる工夫をしている。頻尿の方には、個別に多く声かけしたり、その方の排尿パターンに応じて排泄を支援している。		
57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		14:00～18:00の間で、月・水・金を入浴日と決めてはいるが、希望や状態により、時間外の入浴や入浴日以外の入浴も行っている。浴室も週交代で大浴室と小浴室を使い分けてはいるが、希望に応じて、臨機応変に対応している。	〇	一人ひとりの希望にそえるようにしてはいるが、まだ不十分で、不便と言われる方もおいでる。更に柔軟な対応ができるように、取り組んでいきたい。
58	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		リビングや畳の間、・廊下のスペース、居室で自由に横になっていただけるように、その方の状況に応じて個別に支援している。必要以上ににぎやな音とならないように配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		一人ひとりの力が発揮できるように買い物・調理・野菜の下処理・菜園・手摺り拭き・洗濯物たたみ・庭掃き等、能力に合った役割を持ち、また手芸・俳句・カラオケ・書道など趣味に合ったクラブ活動にも参加されている。その他、外出・外食も利用者の希望を聞きながら交代で参加していただける機会を設けている。		
60	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		外出時に、ご自身で支払いをしていただいたり、使う目的でなく、希望に応じて、自身で小銭を管理していただいている。		
61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		個別の希望に添って、自宅への外出や墓参り等、随時戸外に出かけられるように支援している。いつでも出られる事をアピールしている。		
62	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		小グループの外出と、個別の外出に分けて希望を聞きながら、ご家族にもご協力をいただいて行っている。馴染みの場所を好まれる方、流行の場所を好まれる方など、希望は様々である。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使えるようにしている。特に制限もなく、使っていただいている。手紙のやりとりも希望に応じてできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	現在、気軽に立ち寄り、長時間自室で過ごしていただいている友人がいたり、県外からの親族には、長時間滞在していただき、食事も一緒に召し上がっていただき、気軽にゆっくりと過ごせる雰囲気づくりに努めている。		
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束によって生じる身体的・精神的弊害を理解し、拘束の無いケアに取り組んでいる。また日々のケアの中で自覚しにくい拘束や言葉による拘束についても話し合い、正しく理解ができるように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が自由に出入りできるように配慮している。職員は玄関近くを常に視野に入れ、入居者の後ろからさりげなく声かけを行い、安全面に配慮し援助している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内を確認する際には、前もってドアを叩き、入室の許可を得てから立ち入るようにしている。夜間は定期的に確認する必要がある為、入室させていただくことを事前に説明し、理解を得てから行っている。また居室外の廊下部分全体が見渡せる位置で、記録や作業を行い、夜間起きられた際には、すぐに対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物はなるべく自室へは置かないように、家族にも協力していただいている。包丁・ハサミ等は保管場所を決め、夜間は鍵の掛かる場所に保管している。	○	危険物を居室に置かないように決めているので、今後は状態に応じて、柔軟な姿勢で対応したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に対する予防知識について、職員全体で学び、尚かつ一人ひとりの状態に応じたリスクを考えて、個別に取り組んでいる。同時にヒヤリハット報告用紙を作成し、ケースごとに原因を分析し、今後の予防対策を検討している。	○	衝撃吸収マット・保護目的の帽子等個別に、具体的な対応策も考えてきた。今後も個別に対応していきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	近隣施設も協力し合い、勉強会を通じて事故発生時の初期対応方法を体得している。ホーム内でも新人職員が入社した際には、一連の工程をマニュアルを基に指導している。	○	来年度の研修計画に盛り込み、計画的に実行していく予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、近隣施設と合同で、消防訓練を実施している。日頃から近隣施設との連絡・協力を得られるように働きかけている。また災害対策マニュアルを作成し、対処している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、安全対策委員会で検討し、家族にも説明している。家族も本人も納得しながら、リスクを最小限に食い止められる方法を考えて実行している。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調不良者に対しては、体調不良者バイタルチェック表を作成し、細かく記載している。職員は出勤時には必ず書類に目を通し、情報が共有できるようにしている。病院への報告も必要に応じて1日1～3回行い、その都度指示を仰ぎ、対応がスムーズに行えるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況説明書をファイルに保存し、いつでも見える場所に置いてある。日頃から服薬状況についても調べておくように指導している。また、薬に変更があった際には、申し送りノートに記録し、職員全体が確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、繊維質の多い野菜を選んだり、毎日牛乳を飲んでいただいたりしている。また散歩や家事活動で身体を動かし、自然排便につながるように工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの徹底を心がけている。自分でできない方については、職員ができない部分を介助している。	○	拒否される方もおいでるが、最小限に留められるよう口腔ケアの大切さをその都度説明し、また声をかける職員を交代するなどして、全員が実施できるように今後も工夫して取り組みたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、それぞれの状態を把握している。糖尿病・心臓疾患など持病のある方については、医師の指示を仰ぎ、栄養士免許を持つ職員を中心に栄養バランスについて個別に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成し、周知徹底している。インフルエンザ予防対策については、職員はもちろんの事、入居者の方も毎年予防接種を受けていただき、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルを作成し、予防対策の周知徹底をしている。台所内の点検・消毒については、定期的に行えるようにチェック項目を作成し、それに基づき実施している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花や木を植え、毎日掃除をし、清潔で家庭的な立ち寄りやすい雰囲気を作りあげている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では、随時音楽を流したりしている。また中庭や散歩道中に摘んだ草花を飾ったりしている。毎日10時には、コーヒーをたてて香りを楽しむひとときも作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや畳の間以外に和みの間というスペースがあり、中庭を眺めながら少人数で過ごせる空間を設けている。その方の状況に応じて個別に支援し、個々の時間を自由に活用できるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に連絡を取り、使い慣れた物があれば持参していただく等して、居心地のよい環境づくりに取り組んでいる。鏡台や位牌・ミシンなど持参されている方もおいでます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎夜、流し台や洗濯場排水溝に水を流したりして、空気のよどみをなくすように工夫している。温度調節は、好みや状況に配慮しながらこまめに調整している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間の必要な場所に手摺りを設置し、洗面台や蛇口の高さも使いやすい工夫している。その他、こまやかに配慮して、なるべく自立し、できない部分だけ補えるように工夫し、支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知能力に応じて、混乱や失敗を防ぐことができるように、電気やトイレのボタン・使用方法をシールで貼ったり、居室前に個別の飾りをして自分の居室だと気づきやすい工夫をするなど、注意して取り組んでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内に中庭があり、紅葉が植えられており、四季が直接感じられる工夫をしている。また、中庭のベンチで夕涼みや日なたぼっこをされたり、外気に触れてお弁当やおやつを食べる等有効利用ができている。さらに、中庭でのお月見や阿波踊り・野立てなど屋外でのイベントも楽しんでいる。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目			
項　目		最も近い選択肢の左欄に〇をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	〇	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	〇	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	〇	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	〇	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	〇	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	〇	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	〇	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

○利用者のペースに合わせて、職員も一緒に生活しているという雰囲気を大切にしている。（他施設と比べても、ゆったりとした時間が流れるように工夫し、利用者の希望を可能な限り、叶えられるように職員もゆとりを持って接している。）
○開放的な環境で、自由にのびのびと生活していただいている。ホーム中央にある広い中庭には紅葉が植えられ、四季を感じていただける工夫をしている。周りのウッドデッキでは、利用者が季節を感じながら、お茶やお花見、阿波踊りなど自由に楽しめる配慮がされている。また、夕涼みや軽食、季節の行事など屋外ならではの有効利用ができている。
○利用者一人ひとりが生き甲斐を持って生活できるように、また利用者一人ひとりのできる力が最大限に発揮できるように取り組んでいる。クラブ活動も多様で、俳句・学習会・習字・カラオケ・手芸・園芸・フラワーアレンジメント等それぞれ自由に参加楽しめるように配慮されている。
○協力病院とも連携がよく取れている。（体調不良時には、病院からも状態報告についての問い合わせがある他、折りに触れて入居者の状態を確認される等協力している。）
○同一敷地内に医療・保健・福祉施設が隣接しており、状態の変化があっても馴染みのある風景の中で生活ができる。